利用実態から捉えた路線バス・デマンドバスの評価比較

社会システム計画学研究室2011年度卒業研究　北野悠介

研究の背景

地方都市

高齢化の進展

公共交通需要調整規制撤廃での不採算路線バスの減便・廃止

→交通空白地域が増え移動手段に困る人が増加

住民の交通手段の確保が重要な課題

新たなバス交通システムの導入

コミュニティバスゃデマンド交通システム（DRT）等

様々な地方都市で導入が進んでいる

しかし、

どのような地域でどういったシステムが適しているか？

明らかとなっていない

研究の目的

定時定路線・DRTどちらも経験している地域で、実際どういったシステムの評価が高いのかを明らかにする

✔自治体から提供して頂いたDRT利用の実質的なデータを用い、現在のDRT利用実態を把握している

✔ DRT導入に伴う住民の意識とバス利用の変化を把握している

調査対象地域について

岡山県総社市

人口67,503人

人口県内第4位

雪舟くん

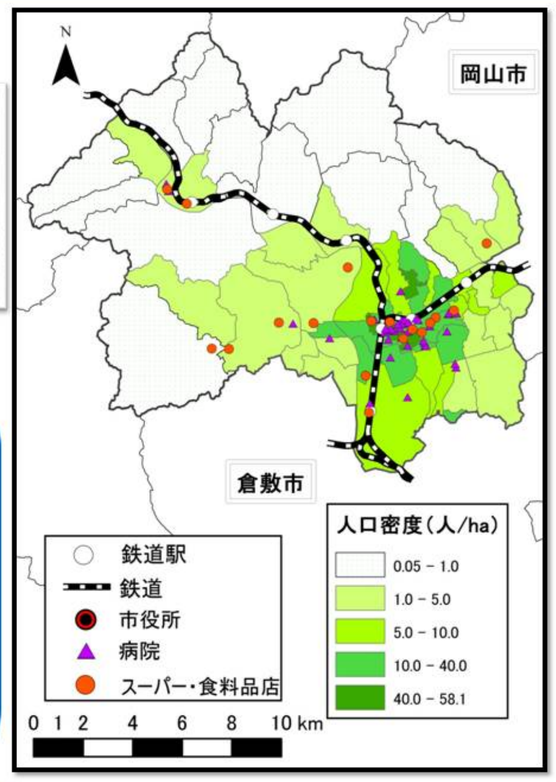
✔総社市の中心部に商業施設・医療機関が集積し、人口も集積

ここ数年で

✔全域で路線バスが減便・廃止

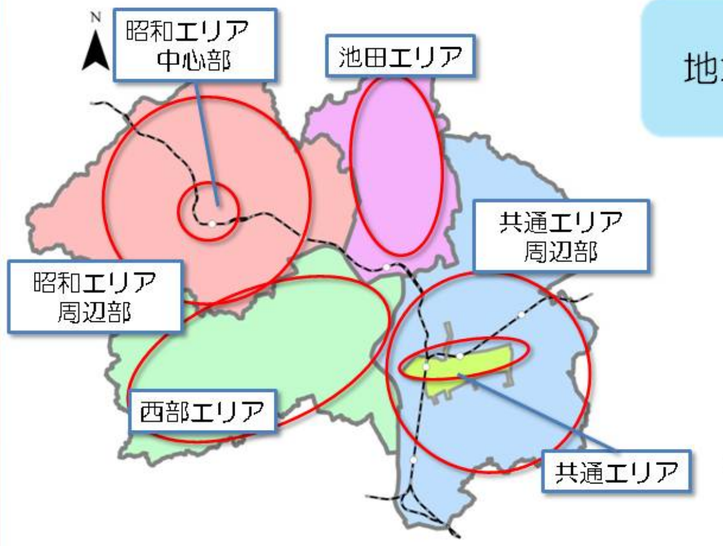
2011年4月～

✔市内にDRT「雪舟くん」を導入



総社市

アンケート調査について



総社市全域
地域ごとにポスティングによる
現地配布

調査項目
- ○外出状況
- ○バスの利用状況
- ○バスの位置づけ・満足度
- ○路線バス・DRT選好意識
- ○個人属性

アンケート配布エリア

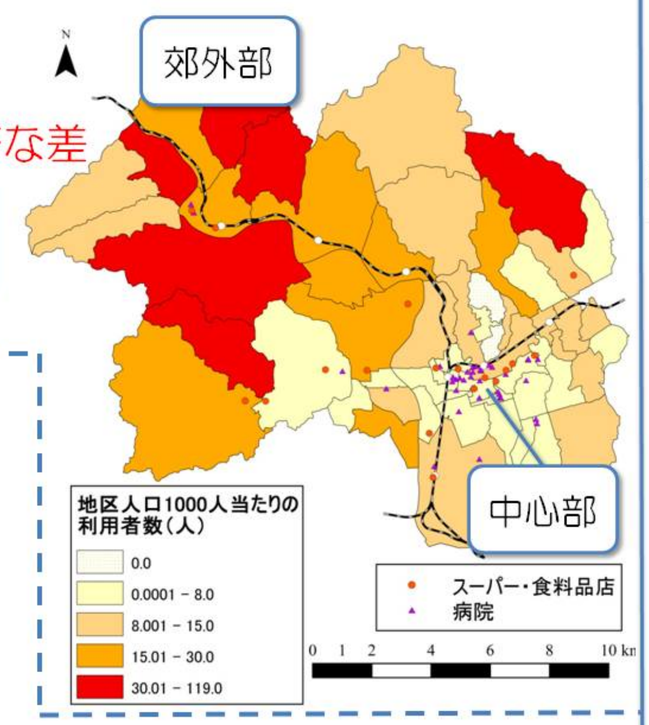
分析結果

DRT利用者の居住地分布

地区人口1000人当たりのDRT利用者数

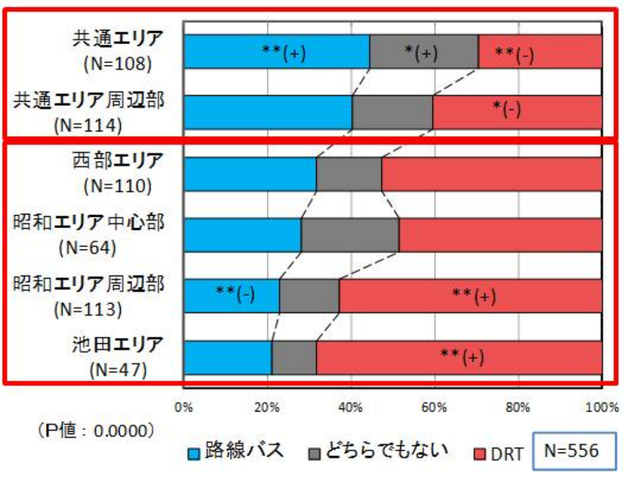
中心部と郊外部で利用割合に顕著な差

中心部の人はDRT以外の公共交通を利用したい？



路線バス・DRT選好意識

選好意識×エリア

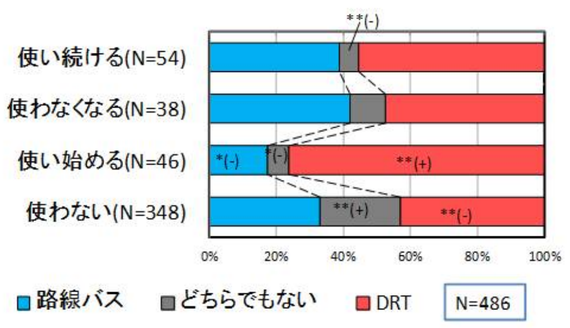


中心部では路線バス
郊外部ではDRTが好まれている

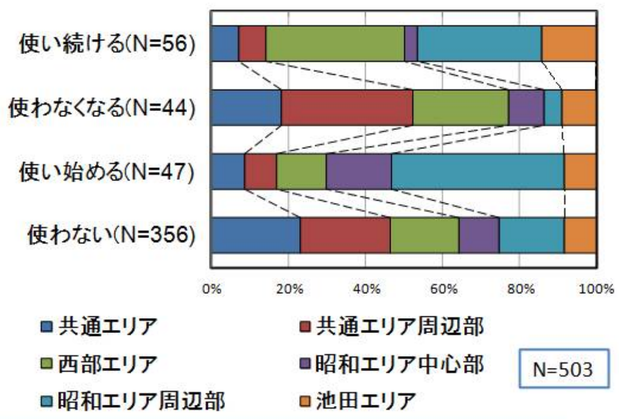
選好意識×バス利用変化

以前路線バス利用有無→現在バス交通利用有無
4つのバス利用変化に分類

使い続ける　使わなくなる
使い始める　使わない

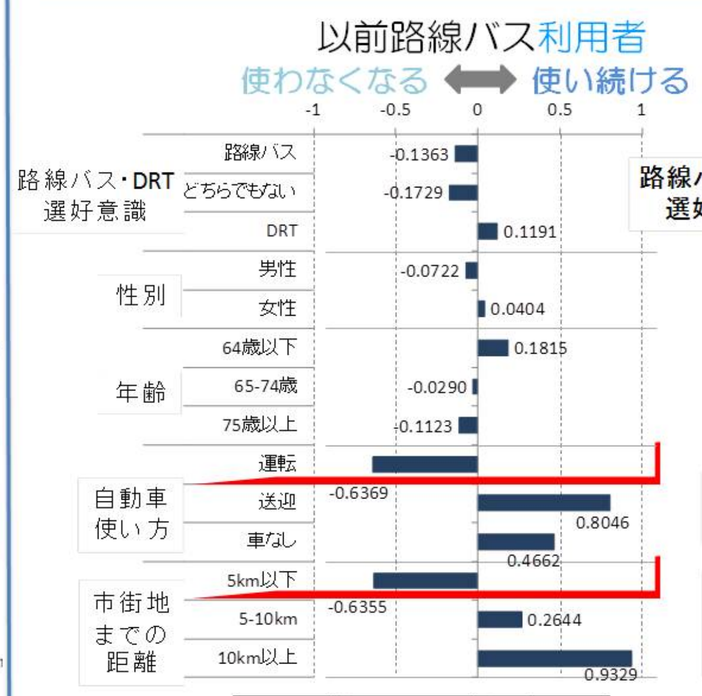


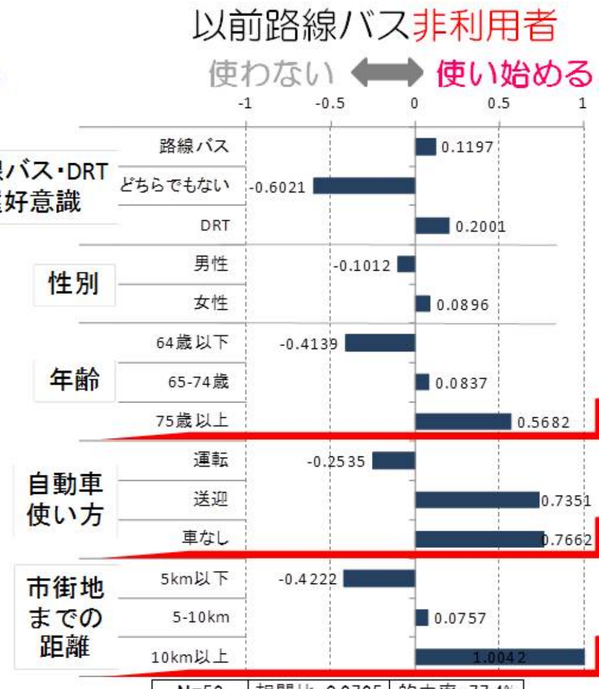
選好意識×エリア



使わなくなる人が中心部に近い場所で多く存在

交通体系変化が住民のバス利用に及ぼす影響の分析





結論

DRT利用者の居住地特性

中心部　DRTの利用者割合が低い

郊外部　DRTの利用者割合が高い

路線バス・DRT選好と地域の関連性の把握

中心部　路線バス　郊外部　DRT　が好まれる傾向

交通体系変化前後のバス利用変化の把握

実際の住民のバス利用の変化を見ると，
中心部5km以内ではDRTは利用しにくい

住民にとって利用しやすいバス交通を実現するためには・・・

中心部　DRT以外のバス交通の充実（循環型路線バス）

郊外部　今以上のDRTのサービス向上　が必要